

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成16年10月28日(2004.10.28)

【公表番号】特表2000-513389(P2000-513389A)

【公表日】平成12年10月10日(2000.10.10)

【出願番号】特願平9-523303

【国際特許分類第7版】

C 0 8 G 65/10

C 0 8 G 65/26

【F I】

C 0 8 G 65/10

C 0 8 G 65/26

【手続補正書】

【提出日】平成15年11月19日(2003.11.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成15年11月19日 適

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成09年特許願第523303号

2. 補正をする者

氏名（名称） バイエル・アントウエルペン・エヌ・ベー

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士（6214）青山 葵 

4. 補正対象書類名 明細書および請求の範囲

5. 補正対象項目名 明細書および請求の範囲



方
式
審
査


6. 振正の内容

I. 明細書の振正

- (1) 第1頁第7行の「適當な数のヒドロキシル基を有する」を『適當な水素含有』に訂正する。
- (2) 第1頁第22行～第23行の「適當数のヒドロキシル基を含む」を『適當な水素含有』に訂正する。
- (3) 第6頁第8行の「原定」を『限定』に訂正する。
- (4) 第8頁第9行の「4ヒドロキシル基」を『四価』に訂正する。
- (5) 第8頁第10行の「5ヒドロキシル基」を『五価』に訂正する。
- (6) 第8頁第11行の「6ヒドロキシル基」を『六価』に訂正する。
- (7) 第8頁第13行の「8ヒドロキシル基」を『八価』に訂正する。
- (8) 第8頁第21行の「官能価」を『官能性』に訂正する。
- (9) 第12頁第1行の「安息香酸、亜鉛」を『安息香酸亜鉛』に訂正する。
- (10) 第12頁第18行～第19行の「カリウムヘキサシアノコバルテート(III)」を『カルシウムヘキサシアノコバルテート(III)』に訂正する。
- (11) 第16頁第21行の「適當数のヒドロキシル基を有する」を『適當な水素含有』に訂正する。
- (12) 第18頁第1行の「ただちのに」を『ただちに』に訂正する。
- (13) 第18頁第3行の「得られるる」を『得られる』に訂正する。
- (14) 第19頁第2行の「新鮮な」を削除する。
- (15) 第19頁第12行の「溶解させた」の次に『(溶液1)』を挿入する。
- (16) 第19頁第13行の「溶解させた」の次に『(溶液2)』を挿入する。
- (17) 第22頁第3行の「密接」を『充分』に訂正する。
- (18) 第22頁19行～第20行の「プロピレンオキシド(10～11g)の一部」を『プロピレンオキシドの一部(10～11g)』に訂正する。

II. 請求の範囲の振正

別紙の通り。

以上

(別紙)

請 求 の 範 囲

1. 二金属シアン化物錯体触媒による、一価または多価のオキシアルキル化可能開始剤分子のオキシアルキル化によって、事実上遷移金属を含まないヒドロキシル官能性ポリオキシアルキレンポリエーテルを製造する方法であって、

- a) 前記開始剤分子を、二金属シアン化物錯体オキシアルキル化触媒の存在下で、一つ以上のアルキルレンオキシドによってオキシアルキル化し、このとき前記触媒が、プロピレンオキシドによるオキシプロピル化に関して測定したとき 105°C、0.68バールのプロピレンオキシド圧、およびポリオキシプロピレンポリエーテル生成物の重量に対する 100 ppm触媒の条件下で、約 5 g プロピレンオキシド／分以上のアルキレンオキシド重合速度を有し、また、前記オキシアルキル化時の前記二金属シアン化物錯体触媒の濃度が、前記ヒドロキシル官能性ポリオキシアルキレンポリエーテルの重量に対して約 15 ppm以下であり、
- b) 事実上遷移金属を含まないヒドロキシル官能性ポリオキシアルキレンポリエーテル生成物を採取すること、
から成ることを特徴とする方法。

2. 二金属シアン化物錯体触媒による、一価または多価のオキシアルキル化可能開始剤分子のオキシアルキル化によって、最小限の誘導時間で、ヒドロキシル官能性ポリオキシアルキレンポリエーテルを製造する方法であって、

- a) 予備活性化開始剤／二金属触媒マスターbatchを、
 - i) 開始剤分子と二金属シアン化物錯体オキシアルキル化触媒との混合物を作り、
 - ii) 前記混合物に一つ以上のアルキレンオキシドを添加して前記混合物上方にアルキレンオキシド分圧を発生させ、
 - iii) 前記アルキレンオキシド分圧の低下後に、活性化された開始剤／二金属シアン化物錯体触媒マスターbatchを得ることにより、
製造し、
- b) 前記予備活性化マスターbatchの少なくとも一部をオキシアルキル化反

応器に加え、

- c) 前記開始剤分子を一つ以上のアルキレンオキシドでさらにオキシアルキル化すること、

から成ることを特徴とする方法。

3. ヒドロキシル官能性ポリオキシアルキレンポリエーテル生成物を作るための、二金属シアン化物錯体触媒による、一価または多価の開始剤分子のオキシアルキル化に伴う誘導時間を最小限におさえる方法であって、

a) 一つ以上の開始剤の分子を含む混合物に、熱安定な二金属シアン化物錯体触媒を、前記ポリオキシアルキレンポリエーテル生成物の重量に対して 100 ppm 以下の量だけ添加して、開始剤／触媒混合物を作り、

b) 前記開始剤／触媒混合物にアルキレンオキシドを加えて、開始剤／触媒／アルキレンオキシド混合物を作り、

c) 前記開始剤／触媒／アルキレンオキシド混合物を、触媒の活性化を示す圧力降下が起きるまで、125°Cよりも高い温度で加熱し、

d) 約 70°C～触媒失活温度範囲の温度で追加アルキレンオキシドによるオキシアルキル化を行い、

e) ヒドロキシル官能性ポリオキシアルキレンポリエーテル生成物を採取すること、

から成ることを特徴とする方法。

4. 請求項 1～3 のいずれかの方法によって得られるポリオキシアルキレンポリエーテルポリオール。